

りんどうのプラグ育苗法（追補）  
トレイおよび用土の種類と苗の生育

園試野菜花き部、環境部

1. 背景とねらい

『りんどうのプラグ育苗、早期定植』については、平成元年度参考事項として公表したところである。この方法による栽培2年目の生育状況は、順調に旺盛な生育を続けている。

りんどうは、育苗段階における環境変化の影響を受けやすく、プラグ育苗法では、温度や水分管理が重要となる。

しかし、現場では少量は種の場合、現在の方法では10～20%の欠株が発生して問題となっており、各種トレイの特性、用土についての検討が求められていた。

そこで、現在流通している数種のトレイおよび箱育苗用土として開発されたリンドウ培土に改良を加えたプラグ専用土について、その実用性を検討したので参考に供したい。

2. 技術の内容

1)トレイの特性

(1)苗の生育に関しては、タイプCのトレイがタイプAおよびタイプBより以下の点で優れている。

- ①セル内温度の変化が小さく、最高気温も低く抑える。
- ②欠株率が低く、定植時の苗も充実している。
- ③定植初年度の生育量が旺盛である。

表-1 トレイ別苗の生育特性

トレイのタイプ	材質	セル数	規格 (mm)	容量 (cc)	定植時		定植6カ月後	
					育苗成率	生育量	新鮮重	芽数
A	塩ビ	200	23×23×36	10	低い	中	中	中
B	〃	253	20×20×40	9.3	やや低い	中～大	中	中～多
C	発泡スチロール	299	21φ×40	8.8	高い	大	大	多

(2)作業性、経済性についても、概ねタイプCのトレイが優れるが、トレイの保管やシステム化対応では、タイプAおよびBの方が優れている。

表-2 トレイのタイプ別作業性、経済性

トレイのタイプ	材質	セル数	取扱い	苗の抜取り	保管	10a当り 資材費	システム化 対応
A	塩ビ	200	やや難	易	易	高	可
B	〃	253	難	やや難	〃	高	〃
C	発泡スチロール	299	易	易	難	安	-*

\*現状では不可（開発中）

## 2)用土

用土はいずれもプラグ用土として使用できるが、以下の点で改善区の方の実用性が高い。

(1)セル内温度の変化が小さく、最高気温が抑えられる。

(2)欠株率が低い。

(3)定植初年度の生育が旺盛である。

表-3 用土のタイプ別苗の生育特性

用土のタイプ	セル内の 温度変化	定植期		定植6カ月後	
		苗育成率	生育量	新鮮重	芽数
N (慣行リンドウ培土)	中	低い	中	中	中
R (改善リンドウ培土)	少	高い	中~大	中~大	中~多

## 3)適応地域

県下全域

### 3. 指導上の留意点

#### 1)トレー

①セル内温度が高くなるないように日中の高温時には遮光管理とする。ハウス内は25℃以上にならないように充分換気する。

②発泡スチロール製トレーは光によって老化が進むので、保管は直射光が当たらないような場所を選ぶ。

#### 2)用土

①は種後1カ月目頃から、液肥を施肥して肥切れを防ぐ。

②用土はピートモスの含量が多く、一度乾燥すると固結し、管理が困難となるので注意する。

③改善した用土は、従来の箱育苗用としても充分使用できる。